

# 武漢大学留学報告

医学部 5年 101069 西浦司人

僕は2/17から3/24の期間に武漢大学で留学しました。武漢大学では解剖学講座に配属され、解剖の授業、実習に参加し、また研究室の見学をしていました。解剖の授業は主に神経系の授業に参加しました。解剖の内容はとても詳しい範囲を先生方が熱心に教えていたため、大変勉強になりました。また、学生も授業に積極的で、授業中にも疑問を持てば質問をし、先生が生徒に質問を投げかけた時も、皆が自分の考えを先生に答えるという光景がみられた。また、解剖実習にも参加しました。日本ではほとんどの実習過程を自分で行うことができます。それに対して武漢大学では学生の数が多く、7~8人の学生が一緒に実習するため、日本に比べたら充実した実習環境ではないと思いました。しかし、武漢大学の学生は皆で協力し、実習から一生懸命学ぼうとする姿勢がみられた。武漢大学の留学では医学の知識だけでなく、この積極的に自分から学ぼうとする姿勢の大切さを改めて感じることができました。他に授業以外に解剖の研究室も見学させてもらいました。解剖の研究室は二つあり、循環器の研究と神経系の研究をしていました。僕は神経系の研究室を少し見学させてもらいました。主にマウスを使って、神経の疾患についての研究をしていました。そこで、僕は研究操作等をすこし教えてもらいました。中国のほとんどの学生は大学卒業後、修士や博士を取得するために大学院に進みます。なぜなら、中国で将来、医師として良い仕事を得るために欠かせないものだからです。医師になるための考え方も日本とは異なるのだと感じました。今回の留学を通して、研究することで新たな発見をすることや他の研究者と交流できるなど研究の面白さについて少し興味を持つことができました。



研究室でお世話になった張先生という方に研究の事についてたくさん教えていただきました。



解剖の授業の光景です。

また今回の留学では多くの学生や先生方に武漢の町の観光にも連れて行ってもらい、中国の文化に触れることも出来ました。博物館や黄鶴楼、中国のお寺など様々なところを観光しました。博物館では湖北省に関連したもの主に展示してあり、中国の長い歴史に触れました。黄鶴楼は日本にはない中国独特な建造物で、とても壮大で印象的でした。中国のお寺では日本と同じようにお祈りをするのですが、そのやり方が日本とは異なっていたり、また仏像の姿も少し異なるような感じがし、参拝していて面白かったです。また、中国の市場なども見せてもらい、中国の一般市民の生活環境も知ることができました。



黄鶴楼



お寺（師元禅寺）



武漢の市場も見学しに行きました。日本とは野菜や肉の売り方が異なり驚きました。

今回の留学では多くの中華料理を食べることができたのもとてもうれしい経験でした。中華料理にもさまざまな種類があり、その中で今回は香港料理やウイグル料理も食べることができ、大変うれしかったです。しかし、中華料理のほとんどが油っこいため、毎日食べていると日本料理が恋しくなることもありました。このように食文化の違いから自分も違う国、文化で生活していると感じることもでき楽しかったです。



ウイグル料理



ワンタン(中国の伝統料理)



炒飯(一番食べました。)

僕たちは今回の留学中に多くの学生たちと交流することができました。彼らは僕たちが日本から来ていると知ると、すぐに話しかけてくれ、簡単に仲良くなれました。留学前は自分たちから積極的に声をかけていく必要があると思っていたので、彼らの親切で、友達を作ることに對しての積極性には驚きました。彼らとすぐに仲良くなれたおかげで今回の留学を最初から最後まで充実させることができたと思います。休日や放課後に僕たちは彼らとバドミントンやバスケットボールをし、楽しみました。また、彼らが僕たちを食事に誘い、おもてなしをしてくれたため、そのお礼として、日本料理をふるまうというパーティーもしました。日本の文化を海外の人に伝えることが初めての経験であったので、英語で伝えることや、日本独自の考え方どう伝えるかなど難しさを感じましたが、皆が日本料理を楽しんでもらえたので大変うれしかったです。



↑友達に日本料理をふるまいました。



今回の留学を通して、僕は医学についてだけでなく、他の国での医者についての考え方や様々な文化を学ぶことができたと思います。また、武漢大学の学生からは積極的に様々なことに興味を示すことの大切さを学びました。彼らは医学や語学、他国の文化など様々なことに興味を持って、勉強していました。だから、彼らは積極的に行動できるのではないかと思います。僕も今回の留学を通して学んだこと活かして多くの異文化に興味をもち、交流できる機会があれば積極的に参加したいと思いました。また医学に関しても興味ある分野がたくさんあると思うので積極的に興味を持ち、勉強していきたいと思いました。

最後に今回の留学に関わっていただいた福島教授をはじめとする福島医科大学の先生方、企画財務課の職員の方々、そして武漢大学でお世話をしていただいた Dai 教授、Hou 教授、Ma 教授をはじめとする先生、職員、学生の方々に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。